

東京どんぶらこ

887

おやまだい
尾山台 (世田谷区)

あし

東急大井町線の尾山台駅

今昔記

作家で文芸評論家の安岡章太郎が尾山台に越してきたのは一九五六(昭和三十一年)三月。「悪い仲間」などで芥川賞を受賞した安岡は結婚して子どもが生まれたばかりだった。自著「僕の東京地図」で回想している。「何となく申し込んだ住宅金融公庫が当たり、あわてて探したので、家は腰掛けのつ

心癒やした田園の風景

もりだった。それが終の住み処に...だが住めば都だ。新居は南斜面にあり正面には八幡様の森、歩けばすぐ多摩川の土手に出た。途中にはバラが咲き誇って、近くには桜並木や遊水池があり、夏にはつるさいほどのカエルが鳴き声が聞こえた。のどかな田園風景と多摩川を愛しながら創作に励み、

文芸人として確固たる地位を築いていく。二〇一三年没、九十二歳。田園は年々歳々移り変わり、遊水池もいつしか消えた。彼の心を癒やしたカエルの鳴き声も今はもう聞かない。(哲)

次回 北斎通り(墨田区)

尾山台いちば
地域に根付いた充実の個店がそろう
切り花から鉢植えまで幅広く扱う、お花が身近に感じられる生花店

西島フラワー
休:正月とお盆 9~19時

魚辰 休:日 10時~19時
(商品が出そろうのは昼頃から) 鮮魚は種類も多く総菜も扱い、「ここでなきゃ!」と通うファンも多い。2代目3代目で切り盛りする繁盛店 人気のまぐろ串焼き

八百米 やおよね
「目の肥えたお客さまの期待に応えるように、新鮮で良い品をそろえています」と語る、青果店の店主・豊田さん 10~19時半 休:日

石畳と街路樹の商店街
ハッピーロード尾山台
いつも見ている商店街のモノなのに、実はこんな逸話がありました~
星の模様は、この地域に広がる古墳をモチーフに、悠長な時間と宇宙の無限空間をイメージしたもの
モダンなアーチは、国際的にも評価の高い作家・関根伸夫氏のデザイン
全長365mの石畳は、中国から取り寄せた御影石。交差点の円形のデザインは、古墳から出土した鏡がモチーフ

尾山台図書館
特徴...多摩川の自然や歴史、生態系などの資料を集めた多摩川コーナーがある
こんなイベントもやってるよ
●子ども向けお話し会 毎週水曜 15時半~16時
●赤ちゃんお話し会 毎月第4木曜 11~11時半
9~19時 月・祝は17時まで
03-3703-2581 休:第3木

ピストロレ・シュヴリユ 03-6432-1816 休:火 第1・第3月
熱々のチーズが伸びる様子は圧巻! 夏でもメニューがあるオニオングラタンスープ
ランチ:11時半~14時 金・土・日・祝のみ(9月第1週まで金のランチ休み) 夜:18~23時
オーナーシェフ・大谷さんとフロア担当の奥さま

ハイ焼き茶房 03-3703-0415 休:日
アットホームな雰囲気のお店。2か月ごとにメニューが変わる人気のシーズンメニュー(限定10食、木・金曜のみ)は8月中は「チリコンカン」
絵柄がかわいい手作りのアイシングクッキーは5枚入りの人気商品

美宝堂 03-3704-8262 休:月
ランチ:11時半~14時半 夜:17時半~20時半
手打ちそば 三稜 天ぷらの天丼付きせいろ

DA DA CHA 03-5707-2755 10~19時 休:水
ソーセージの店なのに、店名が「ダダチャ」? 奥さまが山形出身で、その特産品・だだちゃ豆の名前が店名に!
オーナーの 小池さんご夫婦

狐塚古墳 直径約40m、高さ約6mの円墳。開園時間 8時半~17時半(4~10月) 16時半(11~3月)

尾山台 直径約33m、高さ約4.5m、5世紀中頃築造の円墳

尾山台駅前 尾山台駅

宇佐神社

尾山台 尾山台

丸子川 丸子川

東京都市大学 世田谷キャンパス 23区内の私立理工学部系キャンパスの中ではもっとも広く、緑も豊か

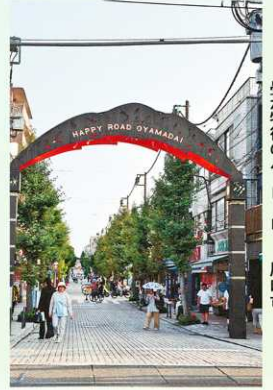
新聞片手にお散歩 スケッチ

御影石の石畳広がる商店街

尾山台駅の踏切北側にある尾山台いちはには、青果店や鮮魚など、長年地域に愛されてきた小売店が入る。「駅ができたのは昭和5年。当時、この辺りには軍人や役人の家が多かったそうです」と話すのは、八百米の豊田謙治さん。尾山台振興会商店街の理事でもある。「昭和40年代、八百米はうちも含めて8軒くらいあったのが、沿線に大型店ができてどんどん減ってしまいました」と

振り返る。 駅から南へ伸びる商店街の道、通称ハッピーロード尾山台は石畳が特徴だ。「滑りにくく水はけのよい御影石を使っています」と教えてくれたのは、美宝堂の安藤武彦さん。尾山台商栄会の前理事長だ。1980年代、安藤さんの先代理事長の時に現在のように整備した。 「先代の役員たちから『ハードは俺たちが整えるからソフトはおま

たちがやれ』と託されました」。その言葉を受け、駅の北側の尾山台振興会との協力体制を確立したり、商店街の業種別地図を作ったり、イベントを企画したりと、さまざまな工夫も重ねた。ハッピーロードの完成を記念して毎年10月に開催する尾山台フェスティバルはとりわけ盛況で、近隣の小・中学校や東京都市大学なども参加する人気行事に成長した。(柴崎朋実)



古墳をモチーフにしたアーチと石畳が特徴のハッピーロード尾山台

90th

2019

東京都市大学



1942(昭和17)年当時の尾山台駅にて

「もっと腕を磨きたい!」実験や実習の授業をしっかりとやってほしい!」授業の改善を求める声が上がった。しかし学校側は、彼らを放校処分。「それなら理想の学校を自分たちでつくりあげよう」と彼らは立ち上がる。

そうした経緯で生まれたのが東京都市大学の源流のひとつ、武蔵高等学校(後の武蔵工業大学)です。自ら「学びたい」という切なる思いは周囲の人々の心を動かし、賛同者 支援者を得て一九二九(昭和4)年に東京・大崎の地に開校。電線工場の廃屋を借りてのスタートでした。雨漏りはする。窓ガラスは割れ放題。それでも総動員で修理や掃除に汗を流して完成させた自分たちの学び舎。学生たちの喜びは計り知れなかったといえます。その後、より良い環境を求め、一九三二(昭和7)年に大岡山に、一九三九(昭和14)年には、現在の尾山台の地へと校舎を移しました。静かな住宅街と豊かな水と緑に囲まれたキャンパス、充実した教室や実験室、研究室の数々。かつて先輩たちが追いかけてきた理想がここにあります。

二〇〇九(平成21)年には、武蔵工業大学と東横学園女子短期大学が統合。今年創立90周年を迎える本学は、建学の精神「公正・自由・自治」を胸に、これからも人と未来を見つめ続けます。

より良い環境を求めて